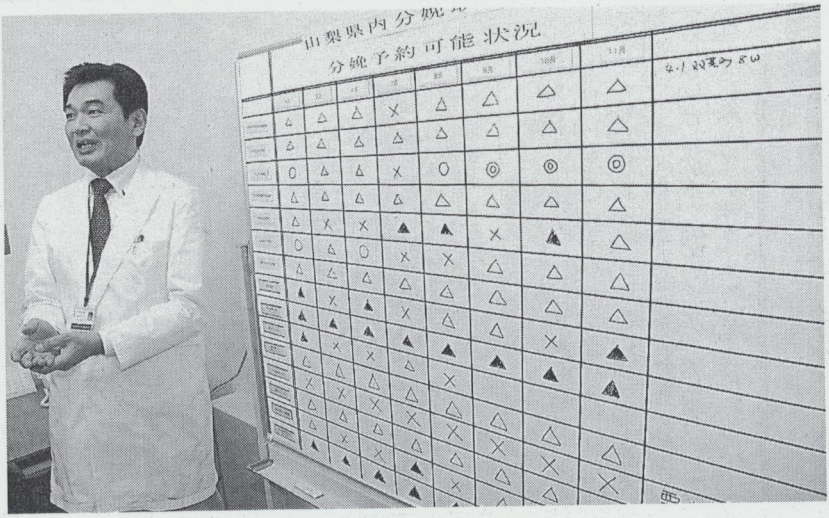

支援室内のホワイトボードに書かれた分娩予約可能状況＝山梨大医学部で

安心して出産を

梨大医学部など 妊婦支援室開設

支える 山梨から

東日本大震災

東日本大震災で被災し、県内で産科診療を希望する妊婦を受け入れるため、山梨大医学部などは1日、同学部内に「県被災・避難妊婦支援室」を開設した。妊婦やその家族から問い合わせを受けた医療機関が対応できない場合、医療機関は支援室に連絡を取り、支援室が他の医療機関を紹介する。支援室には助産師を1人配置する。

同大などは、県内での産科診療を希望する妊婦が多いため、県内で統一して適切に対応する支援室の設置を決めた。円滑に受け入れるため、各医療機関における分娩予約状況などの把握に努める。

県内の産婦人科医療機関は15。これまで、避難してきた妊婦が30人以上診療を受けたという。県産婦人科医会や山梨産科婦人科学会は先月、避難者の妊婦を優先的に受け入れるよう医療機関に依頼している。【水脇友輔】